

野生動物の消費的活用と非消費的活用 ～～～エゾシカでの事例を踏まえて～～～

Consumptive and Non-consumptive Use of Wild Animals

— Based on the Sika Deer (Yezo Deer) Case Example —

鈴木 正嗣 岐阜大学応用生物科学部 獣医学講座 野生動物医学研究室 教授

Masatsugu SUZUKI Professor, Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University,

Veterinary Medicine Program, Laboratory of Zoo and Wildlife Medicine

野生動物の消費的活用と 非消費的活用

～～～Natural Resourcesの考え方～～～





岐阜大学・応用生物科学部
獣医学講座 鈴木正嗣




野生動物の価値とは？

The value of wildlife (Chardonnetら 2002)

- 直接的価値
 - 消費的活用価値（狩猟型、魚類など）
 - 生産的活用価値（魚類を野生動物の栄養の供給、farming）
- 間接的価値
 - 非消費的活用価値（狩猟型以外、狩猟型、養育など）
 - 選択的としての価値（狩猟型を制御する価値）
 - 存在そのものの価値（倫理的価値）
- 経済的有用性（観光収入、狩猟業、観光手紙）
- 倫理的価値（食料源としての野生動物）
- 生態学的価値（食物連鎖、種子の散布など）
- 社会文化的な価値性（地域社会・風土に根付いた利用方法）
- ネグティブな価値（被害等、人によって壊れにくい事例）





野生動物の消費的活用と 非消費的活用

～～～エゾシカでの事例を踏まえて～～～







岐阜大学・応用生物科学部
獣医学講座 鈴木正嗣




野生動物の価値とは？

The value of wildlife (Chardonnetら 2002)

- 直接的価値
 - 消費的活用価値（狩猟型、魚類など）
 - 生産的活用価値（魚類を野生動物の栄養の供給、farming）
- 間接的価値
 - 非消費的活用価値（狩猟型以外、狩猟型、養育など）
 - 選択的としての価値（狩猟型を制御する価値）
 - 存在そのものの価値（倫理的価値）
- 経済的有用性（観光収入、狩猟業、観光手紙）
- 倫理的価値（食料源としての野生動物）
- 生態学的価値（食物連鎖、種子の散布など）
- 社会文化的な価値性（地域社会・風土に根付いた利用方法）
- ネグティブな価値（被害等、人によって壊れにくい事例）

自然資源(natural resources)とは？



ワイスコンシン州立大学
生物資源学部のサイト

学科構成は・・・

- Fisheries and Water Sciences
 - 漁業を領域別の管理
- Forestry
 - 園林科学
- Paper Science and Engineering
 - 製紙技術など
- Resource Management
 - 土地資源の管理、環境教育など
- Soil and Waste Resources
 - 土壌や廃棄物の管理など
- Wildlife Ecology
 - 野生動物の生態学を管理学など

野生動物の価値とは？

The value of wildlife (Chardonnetら 2002)

- 直接的価値
 - 消費的活用価値（狩猟型、魚類など）
 - 生産的活用価値（魚類を野生動物の栄養の供給、farming）
- 間接的価値
 - 非消費的活用価値（狩猟型以外、狩猟型、養育など）
 - 選択的としての価値（狩猟型を制御する価値）
 - 存在そのものの価値（倫理的価値）
- 経済的有用性（観光収入、狩猟業、観光手紙）
- 倫理的価値（食料源としての野生動物）
- 生態学的価値（食物連鎖、種子の散布など）
- 社会文化的な価値性（地域社会・風土に根付いた利用方法）
- ネグティブな価値（被害等、人によって壊れにくい事例）





ウィスコンシン州の 湿原自然公園に掲げられる看板



自然資源としての消費的活用と非消費的活用の両立

カバの生息数調整と地域への 社会的・経済的還元



- Overgrazing対策として、カバの生息頭数を6,000頭以下に抑える対策
- 狩猟の一部は狩猟者が社会に貢献
- 狩猟者がいる地域は他の観光客も訪れやすくなり、観光客が地域に経済的還元をもたらす
- 狩猟団体の運営・機関は大量の雇用を生む
- 狩猟団体の運営費は地域の博物館や大学等に充てられる(観光客からの収入)
- 肉は干し肉として食用に消費される
- 非消費的活用(ゲーム、ヴェーディング等)も並行して行われる
- 利益の上にはIZAWA(国立公園)と野生動物管理の官庁により、適切な地域社会(学校の教員等の活動)に還元される

※ graze: 家畜などの動物が草を採食すること

2004年の国際自然保護連合 (IUCN) の決議と勧告 (2004)

Resolutions and Recommendations

World Conservation Congress
Bangkok, Thailand
17-25 November 2004

IUCN - The World Conservation Union
2004

3.093 Application of the IUCN Sustainable Use Policy to sustainable consumptive use of wildlife and recreational hunting in southern Africa

南部アフリカにおける野生動物の持続的
消費的活用と狩猟に対するIUCN持続
的活用ポリシーの適用

- ◆ 良く管理された野生動物の消費的活用が生物多様性の保全に貢献するという哲学と実践を支持し...
- ◆ 良く管理された狩猟が野生動物個体群の持続的な消費的活用に役割を演じていることを受容し...

狩猟ガイド会社は海外の狩猟者呼び込み、有料でカバを撃たせる(狩猟者は捕獲ライセンス料やガイド料、ホテル代、輸送費も支払う)



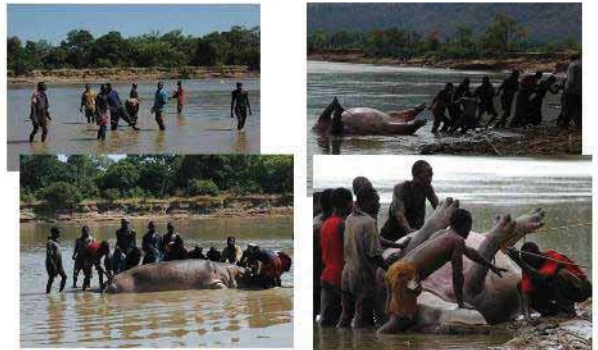
消費的活用と生物多様性保全

- 2004年の国際自然保護連合 (IUCN) の勧告 (前述)
 - 経済的(持続的な野生動物の存在価値を示す)保全への貢献性)
 - 保護区の面積が狭く管理が行われていない地域の管理
 - 非収益的漁獲の開発で保たれるのは保全生物学的観点

南部アフリカ地域における狩猟産業の規模 (Chardonnet et al., 2002)

国名	入国する外国人 狩猟者の数/年	年間収益 (US\$)	関連分野での 雇用数
ボツワナ	150~200	2,000万	1,000以上
ナミビア	2,000~3,000	2,670万	2,125
南アフリカ	4,000	3,000万	5,000~6,000
ジンバブエ	---	1,200万	---
ジンバブエ	---	7,000万	---

捕獲個体の運搬・処理は 大量の雇用を生み出す



生物多様性の保全に貢献する資源的な活用

はじめての 環境経済学



人々の行動を環境を重んじるように誘導するためには
経済的インセンティブを付与するのが最良の方法だ

「アメはムチに勝る」

日本語版への序文:

環境保全にとって市場の方が有益であるという考え方を紹介し検討...

それらの財・サービスに金銭を支払い、それによって環境保全に経済的な支援を与えるような制度を構築することが可能...

肉は干し肉として食用に消費 される(貴重なタンパク源)



非消費的な活用も並行して行われる



日本では、消費的活用-非消費的活用／
生物多様性保全が「対立概念」として
認識されている

シカの資源的活用の推進は、
このような状況の打破・改善の糸口になる
かも知れない

日本では、消費的活用-非消費的活用／
生物多様性保全が「対立概念」として
認識されている

本ワークショップの意義

コンパニオン・アニマルと野生動物とを
「峻別」する（すべき）意識の確認

シカ類の経済的な活用手段あれこれ

- ◆ 非消費的活用
 - ワークス（ウォッチング、観察会）
 - 科学研究や環境教育
- ◆ 消費的活用
 - 狩猟
 - 生存狩猟（subsistence hunting）
 - 商業狩猟（commercial hunting）
 - スポーツ・ハンティング
 - 飼育（husbandry）
 - 粗放的な川い込み（ranching）
 - 集約的な飼養・繁殖（farming）



シカ類の経済的な活用手段あれこれ

- ◆ 非消費的活用
 - ワークス（ウォッチング、観察会）
 - 科学研究や環境教育
- ◆ 消費的活用
 - 狩猟
 - 生存狩猟（subsistence hunting）
 - 商業狩猟（commercial hunting）
 - スポーツ・ハンティング
 - 飼育（husbandry）
 - 粗放的な川い込み（ranching）
 - 集約的な飼養・繁殖（farming）



社会的背景や生息状況に適した活用の 選択と重み付けが不可欠

野生動物管理の一環として、持続性に留意しつつ生息数の減少・抑制策として取り組むべき（個体群モザイクと並行）

エゾシカの場合は、...

- ◆ 非消費的活用
 - ワークス（教育活動も含む）⇨観光・教育とも関連した多角的活用
 - ◆ 消費的活用
 - 狩猟
 - (生存狩猟)
 - 商業狩猟
 - スポーツ・ハンティング
 - 飼育（husbandry）
 - 比較的粗放的な川い込み
 - (一時養育：捕獲後、一定期間の飼育後にと養)
 - 集約的な飼養・繁殖 ⇨野生個体の消費は限定的で個体群管理との関連は薄い
- 内などの供給源
猟区選定とも関連
野生個体の捕獲と直結
するため、個体群管理
に貢献

エゾシカ有効活用のガイドライン (北海道 2004)



- ◆ 基本方針
 - ...自然資源の一つとしてエゾシカを捉え「ワイルドライフ・マネジメント」の観点から...
 - 「エゾシカ保護管理方針」に基づき個体群調整を進めるため、エゾシカ狩猟への経済的なインセンティブを賦与する方策...
 - ...保護管理を進める上で「野生動物の活用は生物多様性の保全に貢献する」との考えが...
 - エゾシカの爆発的増加に便乗した卑なる「営利事業」の位置づけではない

大学教育への導入の必要性

Conservation Leaders for
Tomorrow/A Wildlife Student
Hunting Awareness Program

Conservation
Leaders for
Tomorrow



同プログラムのサイトより

酪農学園大学等でも、野生動物教育の一環として狩猟や資源的活用の授業が始まっている

A Wildlife Student
Hunting Awareness
Program



エゾシカの資源的活用に期待される効果 いずれも「エゾシカ保護管理計画」の推進に直結

- 捕獲したエゾシカの出口を確保できるのみならず、北海道に固有の資源として経済活性化への寄与も期待できる。
- 自然環境保全や被害軽減のためとはいえ「単に殺して廃棄するだけ」という科学的・倫理的な問題の解決にもなる。
- 捕獲に対し経済的インセンティブを付与するため、捕獲数の増加が見込まれる。
- 捕獲個体の廃棄処理に必要な費用と手間が軽減あるいは消滅する。
- エゾシカの経済的有用性が明確となり、地域住民が許容し得る生息数上限が上昇する可能性がある。
- 個体群管理に不可欠な捕獲の担い手（必ずしも「狩猟者」とは同義ではない）の確保を推進される可能性もある。

店の名は「猟野」

